

今日のキーワード 「街角景気」、先行き判断が上昇（日本）

「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象（ウォッチャー）です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2～3カ月前の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1

現状判断DIは2カ月連続で低下

10カ月連続で50を下回る

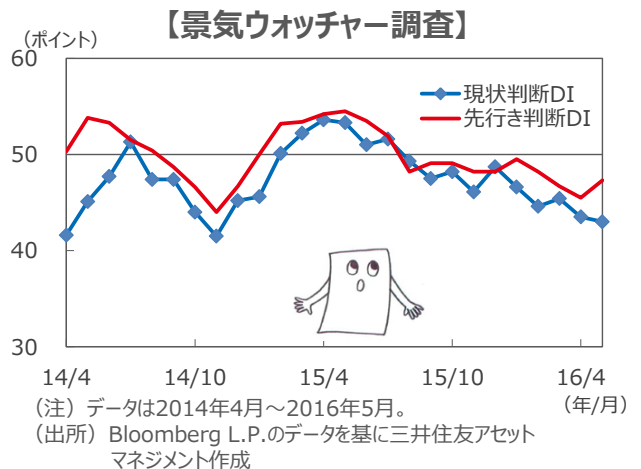
- 2016年5月の「景気ウォッチャー調査」によると、街角景気の実感を示す「現状判断DI」は、前月比0.5ポイント低下の43.0となりました。景況感の節目である50を10カ月連続で下回りました。項目別にみると、雇用が上昇したものの、家計動向と企業動向が低下しました。
- 街角の声には、家計関連で、「雑貨類も含めた婦人服飾全体の落ち込みは大きい」（南関東・百貨店）との見方がありました。また、企業関連では、「燃料代が上昇傾向にある」（東北・農林水産業）との声がきかれました。

ポイント2

先行き判断DIは上昇

4カ月ぶりに改善

- 2～3カ月後の景気を聞いた「先行き判断DI」は、1.8ポイント上昇の47.3となり、4カ月ぶりに改善しました。家計、企業、雇用とも上昇しました。前月に熊本地震の影響で大きく悪化したため、反動が出たこともあるようです。九州地域の指数上昇が目立ちました。
- 街角の声には、「熊本地震の影響から少しずつ回復していく」（九州・衣料品専門店）との見方が出ていました。



今後の展開

経済対策で先行きの株式市場に期待

- 「景気ウォッチャー調査」は、株価に先行もしくは一致するとされ、注目度が高い指標です。今回の調査は、足元景気の足踏みを示しましたが、先行きの改善が示されたため景気持ち直しの期待が持たず。安倍首相は6月1日、消費増税を19年10月まで約2年半先延ばしすることを表明しました。

同時に、「総合的かつ大胆な経済対策を秋に講じる」と発言しており、年度下期には財政支出拡大が想定されます。日銀も今後追加の金融緩和を行うと見込まれます。政府・日銀の経済対策が講じられることで、株式市場の先行きが期待されます。

ここもチェック!

2016年 6月 2日 最近の指標から見る日本経済（2016年6月）
2016年 6月 2日 「法人企業統計」、設備投資は増勢（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。